

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	2022エコフェスタ	所管部署	課名 リレーセンター業務課
----	---	--------	------------	------	------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	1-3	環境衛生の充実		1	ごみの減量化・資源化の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	ごみ減量推進員
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具体的な対象	全町民	⑨対象者の母数	35,219人 (6/30現在)
--------	-----	---------	---------------------

目的・期待成果	ごみの減量化・リサイクルの推進を体験・実感し、ごみ減量について関心・理解を高めていただき、実際にごみ減量に取り組んでいただくことを目的とする。
---------	---

事業内容	家庭にある実際は使用しなかった物等を必要な方に提供できたり、生産時に発生した不要部材を活用した作品制作を体験したりする機会を通じて、ごみ減量化並びにリユースを実感・認識し、ごみ減量について理解と推進を行っていく。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		27		175	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価		協働する相手の評価		
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革	合計		
とてもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった		協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から	C	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。					
						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3								
						協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	2								
						お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4								
						協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2								
						事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3								
	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2													
合計							20								
総合評価						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価					
						35～26	25～21	20～16	15～11	10以下					

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	イベントを通じてごみの減量化・リサイクルの推進を実体験し、ごみ減量について関心を高め取り組んでいただくことができた。	ごみ減量化・リサイクルの推進並びにリユースを実感・認識し、理解が深められた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	ごみ減量をテーマとしたイベントを開催することが広くごみ減量の普及・啓発することにつながることを理解していただき、イベントに対して協力していただくごみ減量推進員の参加人数・割合を増やすことと共に、更に具体的なごみ減量推進へ向けた内容を一緒に提案していき、実践に向け一歩でも前進していく。	今後もごみ減量について広く浸透し実践されるように、行政と方向性を共有して、イベント内容、更には別の取り組み内容を考えていく。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業 名称	ごみ減量推進員	所管部 署	課名 リレーセンター業務課
----	---	------------	---------	----------	------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	1-3	環境衛生の充実		1	ごみの減量化・資源化の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	ごみ減量推進員
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具 体 的 な 対 象	ごみ減量推進員	⑨ 母 数	84人
----------------------------	---------	-------------	-----

目 的 ・ 期 待	ごみの現状やごみの認識を深め、地域住民に対して啓発を行い、ごみの減量化や資源化を推進することを目的とする。
-----------------------	---

事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの現状把握と意識の高揚 ・ごみの減量化や資源化などの取り組みについてのアイデアや情報の提供 ・地域住民へごみの認識や知識の高揚と啓発 ・各種研修会などへの参加
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	2	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
合 計							19	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	C	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	イベント(エコフェスタ開催手伝い、視察研修等)を通じて、ごみの減量化・リサイクルの推進を体験し、ごみ減量について関心を高め、知識を深めていただくことができた。	ごみ減量化・リサイクルの推進並びにリユースの理解が深められて、実際に取り組むが必要と認識した。
協働することで感じた課題や今後の方向性	イベントに対して協力していただくごみ減量推進員の参加人数・割合を増やすこと、推進員と取り組みの方向性を共有して、共に更なる普及・啓発に努め、具体的減量方法を検討していく。	今後も行政とごみ減量化を進めるための方向性を共有して、減量化への取り組みを有効かつ有用なものとしていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	ごみ減量等推進審議会	所管部 署	課名 リレーセンター業務課
----	---	------------	------------	----------	------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	1-3	環境衛生の充実		1	ごみの減量化・資源化の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	ごみ減量等推進審議会委員
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具 体 的 な 対 象	学識経験者、町内の事業所の代表者、住民代表、一般公募委員などからなるごみ減量等推進審議会委員	⑨ 対 象 者 の 母 数	15人
----------------------------	--	---------------------------------	-----

目 的 ・ 期 待	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)第5条の7の規定に基づき、本町の一般廃棄物であるごみの減量等に関する事項について、町長へ答申し、町が最適なごみ減量等の政策を実行できるように促すことを目的とする。
-----------------------	---

事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのごみ減量に向けた取組や行動計画等への評価とその効果を明らかにすること。 ・自治基本条例の理念に基づき、町民のみならずと共々町の環境対策の一つとして今後のごみ減量対策への取組、ごみの分別種類の選定及び収集方法について検討すること。 ・住民の作業や金銭的な負担への配慮及び町財政等を考慮した総合的な視点から、住民からいただくごみ処理手数料の価格について慎重に検討すること。
------------------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		48		180	縮小

今後の方針	(選択)	拡大・縮小・廃止の理由
-------	------	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開 ・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
合 計							26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	本町の一般廃棄物であるごみの減量等に関する事項について、過去の答申内容について理解した上で、町長からの諮問についてさまざまな意見を交えた協議が可能となった。	前回の答申について数々の意見のやりとりができて、今回の3点の諮問内容について、議論を深めることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	諮問内容に即した資料の作成・提供に努め、諮問に対して明確で広く納得してもらえるような答申ができるよう協議を進めていけるように、最終的な方向性について委員と共有を図っていきたい。	諮問内容ときっちり合っていない資料で正しく現状把握しきれない部分があるが、早期に答申できるよう、最終的・目的的方向性を行政と共有して課題解決に向けた具体的な議論を進めていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	自治基本条例展開支援業務	所管部 署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	------------	--------------	----------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	7-4	協働・連携によるまちづくりの推進		1	参画と協働のまちづくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	まちづくりに関心のある個人や団体
協働実施手法	2-3 実行委員会

具 体 的 な 対 象	まちづくりに関わる関係団体や個人、NPO法人など及び町職員 →広陵町人口(約35,000人)の3%が主体的なまちづくりを推進する担い手となるように進めていく。	⑨ 対 象 者 の 母 数	約1,000人
----------------------------	--	---------------------------------	---------

目 的 ・ 期 待	自治基本条例及び令和4年度に策定したまちづくり推進計画に基づく協働のまちづくりを推進するため、地域課題を話し合う住民ワークショップや条例の理解度を高め、運用を図る職員研修を実施する。これらを実施することで、町民及び職員がまちづくりに関心を持ち、主体的に持続可能なまちづくりを町全体で推進することができる。
-----------------------	--

事 業 内 容	職員研修(全職員対象:年1回4コマ)を実施(内容:参画・協働)するとともに、まちづくり推進計画の策定、条例周知や条例に基づく点検評価のための会議体、自治基本条例推進会議の開催(R4は4回)及び関係部会(勉強会:のべ7回)及び住民ワークショップ(3回)を実施した。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,189		1,001		2,188		2,528	縮小

今後の方針 拡大 拡大・縮小・廃止の理由 条例及び計画に基づき、まちづくりの意識啓発を広げていく。

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5 4 3 2 1	と て も で き た そ れ な り に で き た ど ち ら で も な い あ ま り で き な か つ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。			4	来 年 度 か ら	
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。			3		
		自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。			4		
		相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。			4		
		情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。			5		
		評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。			3		
		相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。			3		
		合 計					26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	まちづくり推進計画を策定する際に行政側からたたき台を提案し、複数回にわたって審議したことで、町民の思いに沿った計画策定を行うことができた。	住民がやりたいことに対して行政が寄り添うようになった。意見が各部署に通りやすくなった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	行政側が臨んでいる参画と協働を達成するには、正確性や丁寧さが担保されることが目的となってしまう。行政側がなんでも準備や進行をやってしまうのではなく、ある程度相手側に任せることも必要だと感じる。	上記が進んでいる一方で、行政側が住民の要望を叶えられていないことがあるので、引き続き話し合いの場を設けていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	広陵町男女共同参画審議会	所管部署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	--------	--------------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	5-5	男女共同参画の推進		3	男女共同参画に対する理解と関心の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町男女共同参画審議会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町男女共同参画審議会委員	⑨対象者の母数	15人
--------	---	---------	-----

目的・期待
 公募による委員を含む審議会を開催し、さまざまな分野及び立場から選出された委員からの意見を、男女共同参画社会づくりの施策に反映することを目的とする。令和4年度に広陵町男女共同参画後期行動計画を策定したことから、町や関係団体を含めさまざまな主体が連携しながら男女共同参画やジェンダー平等を推進する。

事業内容
 過年度の男女共同参画事業の進捗評価、男女共同参画やジェンダー平等への提言など
 ※審議会は年1回を想定(R4は後期行動計画策定のため、4回開催)

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		144		60	維持

今後の方針 | 拡大 | 拡大・縮小・廃止の理由 | 行動計画に基づき、男女共同参画やジェンダー平等を推進する。

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	4	来年度から	
					対等性	4		
					自主・自立	3		
					相互理解	4		
					情報公開・透明性	4		
					評価・見直し	4		
					相互変革	4		
					合計	27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		A

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	男女共同参画に関して専門的な知見を学ぶことができるとともに、子ども・子育てに関する「地域女性活躍推進事業」を連携して行うことができた。	広陵町の男女共同参画やジェンダー平等に関する情報を知ることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	男女共同参画や女性活躍事業について関心がある方に情報提供や情報共有をするとともに、連携事業を推進していきたい。	女性活躍やDV被害等に悩む女性等へきめ細かな支援ができるよう行政とともに連携して支援していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業名称	真美一まちづくり協議会	所管部署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	--------	-------------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-2	地域コミュニティの育成	1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	真美一まちづくり協議会
協働実施手法	2-3 実行委員会

具体的な対象	令和4年4月10日に設立した真美一まちづくり協議会に住む真美ヶ丘第一小学校区の住民	⑨対象者の母数	真美ヶ丘第一小学校区の住民 約6,000人
--------	---	---------	--------------------------

目的・期待
区・自治会構成員の高齢化に伴い、地域の担い手が不足するとともに、少子高齢化に伴い税収の減少により自治体財政が厳しくなり、町からフルスペックの支援ができなくなることから、地域主体で課題解決を行うまちづくり協議会を運営するため、金銭的人的及び周知的支援を行う。

事業内容
令和4年度1年間で6回の運営委員会及び6回の全体会に参加。町と協議会の橋渡し役として、どのように連携・協働すれば事業を実施、遂行できるか関連部署との調整を行った。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		400		499		500	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目				
5	4	3	2	1		
とでもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。
合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下

行政の評価	協働する相手の評価
4	来年度から
4	
5	
4	
5	
3	
4	
29	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
A	

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	本来行政が実施すべき事業を協議会が主体的に行うことで迅速かつ丁寧に対応してもらえる。また、地域内での結束力を高めることができています。	協議会が行う事業に対し、協働のまちづくり推進課をはじめ、関係部署からの適切なアドバイス、支援を受けることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	行政課題について方向性やニーズ量が異なることがあり、その調整に苦慮している。話し合いを続けていくことで落としどころを見つけていく必要がある。	協議会のこれからの進め方やあり方について、まだまだ考えていくことが多く、行政からの意見や要望をお聞きしながら、検討していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業 名称	まちづくり連絡会	所管部 署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	------------	----------	----------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	7-4	協働・連携によるまちづくりの推進		1	参画と協働のまちづくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	まちづくり連絡会
協働実施手法	2-3 実行委員会

具 体 的 な 対 象	まちづくり連絡会構成団体(区長・自治会長会、民生児童委員協議会、PTA連絡協議会、老人クラブ連合会、防災士ネットワーク、真美ーまちづくり協議会)に関係する人々	⑨ 対 象 者 の 母 数	約300人
----------------------------	---	---------------------------------	-------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	構成団体間の情報共有及び情報提供並びに活動連携が少なかったことから、これらを行うことを目的に、上記団体の役員を集めて3か月に一度会議を開催し、連携・協働できる事業を模索しながら議論を行っている。
--------------------------------------	---

事 業 内 容	年4回まちづくり連絡会を開催し、連携・協働できる事業を模索しながら議論を行っている。 会議での合意形成により防災訓練について、防災士ネットワークが中心となり、民生委員やPTA、区長会等が連携して実施することを予定している。また、令和5年度に向けて当会のメンバーが中心となってイベントの実行委員会を立ち上げ、協議を行った。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計					26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	団体どうしの連携する組織体が、町の課題解決に対してさまざまな意見を出してもらったことで、町の課題が見える化された。	団体どうしの横串をさせた組織体により、他団体との情報共有ができた。またその意見を町に出すことができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	任意の集まりで予算がないため、意見を言い合う場に終始していることが多かった。しかし、R5年度開催のK. S. H. イベントをきっかけにまちづくりに関して連携していきたい。	町はすぐに動いてくれないため、団体で連携して要望書を出すことや、提言することを進めていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業 名称	協働のまちづくり提案事業補助金	所管部 署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	------------	-----------------	----------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	7-4	協働・連携によるまちづくりの推進		1	参画と協働のまちづくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	NPO等公益的活動を担う団体
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	NPO等公益的活動を担う団体	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	約20人
----------------------------	----------------	---	------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	地域の住民主体で、協働のまちづくりを推進するための活動をしている、NPO法人やまちづくり団体等に対して補助制度を創設し、公益的活動を支援する。これら公益的活動により、行政課題の解決となる団体への取り組みを支援することで、自主自立的な活動を期待できる。
--------------------------------------	---

事 業 内 容	令和4年度は1件(継続)交付した。補助金額が少ないにもかかわらずプレゼン審査を経ての交付であることからハードルが高い、という指摘を受け令和5年度から補助金額を上げ、要件を厳しくした。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		100		300		36		600	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計					26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	町が知り得ない公益的活動を行う団体を見つけることのできる補助制度である。また、町の課題解決のために主体的に活動するきっかけとなる。	協働事業を実施するに当たり、金銭的支援を受けたことから活躍の幅が広がった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	当補助制度の認知度が低いこと、この補助制度を活用するほど協働事業の必要性を感じていないため、今後の補助制度のあり方について自治基本条例の周知とともに検討する必要がある。	補助制度のハードルが高いため、申請や審査の簡素化を求める。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業名称	区長・自治会長会運営補助金	所管部署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	--------	---------------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-2	地域コミュニティの育成	1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	区長・自治会長
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	区長・自治会長	⑨対象者の母数	41人
--------	---------	---------	-----

目的・期待	本会は、町内各大字及び各自治会相互の連携を図り、自治振興の向上と町の発展に寄与することを目的としている。
-------	--

事業内容	現在、広陵町内で区・自治会を結成している41の地域の代表に出席してもらい、役場からの連絡事項を伝達する会議を2か月に一回程度開催している。令和4年度は区長・自治会長たちが課題解決に向け主体的に話し合ってもらった。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		592		142		708		720	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	これまでの連絡事項の伝達のみだけでなく、お互いの悩みなどの話し合う場を持つことで、区長・自治会長の立場や現状を把握することができた。	区長・自治会長や地域の悩みを町と共有することができた。また、さまざまな地域からの要望を地域担当職員などを通じて円滑に聞いてもらうことができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	現役で仕事を続けられる方が区長・自治会長になっていることがあるため、区長・自治会長の業務との両立が難しく、また町との協力がスムーズにうまくいかない場合がある。	特になし

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	7	事務事業名称	自治振興費	所管部署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	--------	-------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-2	地域コミュニティの育成	1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町民(特に区・自治会加入世帯)
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	広陵町居住世帯	⑨対象者の母数	約13,800世帯
--------	---------	---------	-----------

目的・期待	集会所管理費、広報配布費、防犯灯管理費、環境特別保全費、リサイクル管理費に分けて、地域の清掃活動、祭り等の文化的活動、集会所の維持管理など地域の主体的な活動を支援している。
-------	--

事業内容	年に1回、世帯数や広報配布数などの実績に応じて自治振興費交付要綱に定めた補助金を区・自治会(結成されていない場合は担当者へ直接)に支払っている。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		14,969		14,983		15,143		15,544	増加

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	自治振興費といった金銭的支援により主体的な地域活動が担保されている。	自治振興費といった金銭的支援により主体的な地域活動が担保されている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	コロナ禍以降、主体的な地域活動が減っている地域もあり、今後金銭的支援だけではなく、人的支援やアドバイスも必要となるであろう。	特になし

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	8	事務事業名称	男女共同参画出前講座「命の安全教育」	所管部署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	--------	--------------------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	5-5	男女共同参画の推進		3	男女共同参画に対する理解と関心の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町内小中学生及び教員
協働実施手法	1-1 委託

具 体 的 な 対 象	広陵町内小学生(高学年)・中学生及びその教員	⑨ 対 象 者 の 母 数	約660人 (一学年)
----------------------------	------------------------	---------------------------------	----------------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	子どもたちが生命の大切さを学び、性犯罪・性暴力の被害者や加害者、傍観者にならないよう、自分や相手、一人ひとりを尊重する態度などを、発達段階に応じて身につけることを目指すもの
--------------------------------------	--

事 業 内 容	県内男女共同参画団体に委託し、小学校3校(対象5年生・6年生)に対して「命の安全教育」に関する出前講座を行い、DVやデートDVの被害者にも加害者にもならないカリキュラムを実施した。
------------------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		99		99		231	増加

今後の方針	拡大	拡大・縮小・廃止の理由	対象学校数を増やし、毎年全小中学校での開催を目標とするため
-------	----	-------------	-------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5	
		合 計							
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			

来年度から

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。
 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	DVなど専門的でセンシティブな問題について委託先の専門家が丁寧かつ感情豊かに出前授業という形で実施している。児童も新たな気づきを得られている。	直接学校や教育委員会に出前授業をお願いしても中々授業につながらないので、行政主導で学校や教育委員会に依頼し、教育委員会にも協力してもらえ、実施できてよかった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	特になし	カップルが増える年齢の子ども達に知ってもらいたい内容がたくさんあるので、可能であれば、町内の中学校や高校にも出前授業を行いたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	9	事務事業名称	家族(男女)共同の家事・育児を考えるワークショップ	所管部署	課名 協働のまちづくり推進課
----	---	--------	---------------------------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
5-5	男女共同参画の推進		3	男女共同参画に対する理解と関心の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町内子育て世帯の夫婦等
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	町内子育て世帯の夫婦等	⑨対象者の母数	約40人 (参加者)
--------	-------------	---------	---------------

目的・期待	コロナ禍で家庭で過ごす時間が増えた現代において、固定的性別役割分担意識から生まれる夫婦間のすれ違いや家庭内のストレス解消方法等を学びお互いに心地よくそれぞれ役割分担できるようにする。
-------	---

事業内容	男女それぞれグループに分かれて、家庭内の悩みごとや、家事育児の役割分担のノウハウ等について話し合い、共有した。男女の考え方の差や、他の家庭でどうしているのかを知り、夫・妻の本音に気付く機会となった。
------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		-		-		121		165	増加

今後の方針	拡大	拡大・縮小・廃止の理由	対象学校数を増やし、毎年全小中学校での開催を目標とするため
-------	----	-------------	-------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5
		合 計						
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価		
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下	33	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	長年、家族・子育て世帯を応援する活動をされていることからその知見を生かしたセミナーを実施していただいた。今後も、その強みを生かしたセミナーを協働で実施していきたい。	行政と協働で事業をするのは初めてで大変ではあったが、お互い分担して企画段階から相談しながら進めることができた。今後の開催につなげていきたい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	特になし	特になし

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	10	事務事業 名称	第1回K. S. H～みんなでまちづくりを考 えよう～こども体験夏まつり	所管部 署	課名 協働のまちづくり推進課
----	----	------------	---	----------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方 向	番号	展開方向名
	7-4	協働・連携によるまちづくりの推進		1	参画と協働のまちづくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	まちづくりに関心のある個人や団体
--------	------------------

協働実施手法	2-3 実行委員会
--------	-----------

具 体 的 な 対 象	まちづくりに関わる関係団体や個人、NPO法人など及び町職員 →広陵町人口(約35,000人)の3%が主体的なまちづくりを推進するように進めていく。	⑨ 対 象 者 の 母 数	約1,000人
----------------------------	--	---------------------------------	---------

目 的 ・ 期 待	自治基本条例推進会議委員及びまちづくり連絡会構成メンバーを中心に「まずはやってみる実行委員会」を結成。まちづくりを知ってもらうため、楽しんでもらうためにどのようなイベントにするか、参画と協働の原則を元に当実行委員会においてこれまでに何度か会議を重ねた(全体会議3回、コアメンバー会議3回、出展者説明会2回など)。令和5年7月30日に子育て世帯を中心にまちづくりを考えてもらイベント「こども体験夏まつり」を開催した。
-----------------------	---

事 業 内 容	まちづくりを考えよう～こども体験夏まつりの実施
------------------	-------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		-		-		-		4	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4
		合 計					27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政は調整役などの後方支援にまわり、町内関係団体やボランティア団体が主になって主体的に活動してもらった。	「町内の団体を知ることができた」「顔見知りになることができた」「役場職員とフラットな関係になった」などの意見があり、協働事業をするための土壌ができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	行政側が前面に出ず、主体性を地域や団体が持つように取り組んでいかなければならない。	「準備段階での周知不足」「誰が何をするか分からない」といった意見があり、隔々まで情報共有をすることが課題である。第1回目としては成功と思う。今後も続けていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	広陵町ふるさと納税管理業務委託	所管部署	課名 産業総合支援課
----	---	--------	-----------------	------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	6-2	地域経済の振興		1	既存企業への支援及び地場産業の育成

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	一般社団法人広陵町産業総合振興機構
--------	-------------------

協働実施手法	1-1 委託
--------	--------

具体的な対象	全国の納税義務者	⑨対象者の母数	64,498,120人 総務省「令和4年度支障村民税等の納税義務者等に関する調査」より
--------	----------	---------	--

目的・期待	可能な限り多くの寄附金を集めることで、本町在住の納税義務者がふるさと納税制度を利用して他の自治体に寄附することによる徴税の流出を最小限に留めるとともに、返礼品の提供を通じて、本町事業者の商品・サービス等を全国にPRする。ふるさと納税返礼品は販売価格で仕入れるため、寄附額の増加は、町内事業者の売上増となり、産業振興に繋がる。
-------	--

事業内容	ふるさと納税寄附金の募集窓口となるポータルサイトに複数登録し、掲載する返礼品数を拡大と掲載ページの充実化を図る。返礼品は、「靴下ブランディング」「広陵高田ビジネスサポートセンター」「農業塾」等の他の事業とも連携し、有力な地場産品をはじめ、町内事業社の新商品、新規就農者の農産物を積極的に開拓する。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		15,137		28,863		36,700		51,700	増加

今後の方針	拡大	拡大・縮小・廃止の理由	ふるさと納税の市場自体が拡大している
-------	----	-------------	--------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	1	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計							
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			

来年度から

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。
 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政と民間で役割分担をすることで、行政職員ではできなかった返礼品提供事業者の開拓ができた。曾爾村との共通返礼品は行政と民間の連携プレーによる成功事例といえる。	自由に行動することができている。市場環境やふるさと納税ルールの変化についても、必要に応じて相談できる体制ができており、目標達成に向けて十分な協力ができている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	返礼品の登録作業や返礼品提供事業者との関係構築など、複数業務に取り組む必要がある行政職員の苦手分野な専門的な活動について、より多くの権限を委譲することで成果向上に繋げる。	ふるさと納税プラットフォームの拡充等を行政に求める。その際、可能な限り既存プラットフォームと工数を共有できるものを臨む。返礼品提供事業者への説明会の実施などを行政と協働で行う。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	「広陵くつした」ブランディング支援委託	所管部署	課名 産業総合支援課
----	---	--------	---------------------	------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
6-2	地域経済の振興		1	既存企業への支援及び地場産業の育成

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	一般社団法人広陵町産業総合振興機構及び町内の靴下事業者
--------	-----------------------------

協働実施手法	1-1 委託
--------	--------

具体的な対象	自社オリジナルブランドの商品を展開する10社をはじめとする町内の靴下事業者	⑨対象者の母数	50
--------	---------------------------------------	---------	----

目的・期待	「広陵くつした」ブランディング支援事業については、前身事業の成果に基づき、「広陵くつした」というベースブランドの知名度向上を国内外に図る必要がある。
-------	--

事業内容	「広陵くつした」全体のコーディネートを実施するために必要な要素を実態調査で検証した後、国内外のファッション業界や小売業界に精通し、メディア発進力のあるコーディネーターを招聘し、自社ブランドを持つ各社と連携した商品開発や営業活動を行う。
------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円	-	-	-	-	-	1,000	-	9,500	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	ブランディング成果を出すには中長期的に取り組む必要があるため。
-------	----	-------------	---------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	1
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	2
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	1
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	1
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	1
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	靴下事業者へのヒアリングにより、招聘した外部コーディネーターが広陵町の靴下産業の状況を把握することができた。その中で、過去の取り組みを反省し、大方針を確認することができた。	行政が旗を振る「靴下ブランディング」は過去に何度も行われ、成果がなかった。ヒアリングの協力はしたが、事業者としてはコーディネーターと決めた大方針も実行性があるのか様子を見ている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	1年をかけ、ヒアリングや方針について、具体的に靴下事業者に示して成果を上げる必要がある。方針に則って具体的に動くこと、事業者の状況に合わせた修正を加えることで理解・共感を得ていく。	コラボ商品開発等の関わり易い部分で協力していく。ただ、現状はOEM先が変わる程度のことではないと感じている。「広陵くつした」として協働する利点が不明確なので温度感は低い。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	ビジネスサポートセンター運営事業	所管部 署	課名 産業総合支援課
----	---	------------	------------------	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	6-2	地域経済の振興		1	既存企業への支援及び地場産業の育成

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	KoCo-Bizセンター長、大和高田市、連携市町村
協働実施手法	1-3 負担金

具 体 的 な 対 象	既存の支援機関では支援を行うことが困難であった販路開拓や新規事業の創出、情報発信に関するアドバイスを行うため、KoCo-Bizセンター長が事業者からヒアリングを実施し、潜在的な強みを引き出した上で、事業者の資金を多額に使うことなく売上等を向上させるアドバイスを行う。	⑨ 対 象 者 の 母 数	1,035事業者 ※令和3年経済センサス -活動調査における本町 の全事業者
----------------------------	---	---------------------------------	---

目 的 ・ 期 待	小規模な企業でも、製品やサービスのPR及び販路開拓、付加価値の高い製品・サービスを生み出すことのできる環境を確立する。町内企業の収益を高めることで、更なる雇用の創出が期待されることから、町外へ通勤・就職している世代の人口流出を減少させると共に、異なる業種の企業間による新たな技術、サービスの開発など地域経済全体の活性化に繋げる。
-----------------------	--

事 業 内 容	ビジネスサポートセンターを開設し、販路開拓や情報発信などビジネスに関する幅広いスキルを有した人材による域内企業への伴走型支援を行う。令和2年12月に広陵高田ビジネスサポートセンター(KoCo-Biz)を開設しており、広陵町と大和高田市を拠点にセンター長やスタッフが相談に訪れた域内企業の課題をヒアリングした上でアドバイスを行っていく。令和4年4月から本格的に、連携市町(御所市、葛城市、三宅町、川西町)から相談1件につき20千円の負担金を受け、域内での相談対応。令和5年度は、アシスタント人材の雇用し、相談受入体制の確保に努める。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		-		13,247		13,400		16,197	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	伴走支援を掲げた事業であり、事業者に継続的サポートを提供するため
-------	----	-------------	----------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	1	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	1	
		合 計							15
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			D

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	運営2年目となり、広陵町・大和高田市・4つの連携市町村から多くの相談が寄せられ、事業者の満足度、継続率ともに高い状況になっている。SNS・情報発信に関する相談が特に多い傾向がある。	運営負担金が高額であり、継続するには「創業」「新商品開発」等の分かりやすい成果が必要。また、支援の内容が適切であるかどうか、納得のいく説明を求める。
協働することで感じた課題や今後の方向性	事業者ニーズと、パートナーが求める成果にミスマッチがある。ココビズのPR内容で「創業」や「新商品開発」の比率を増やす等、パートナーの期待を汲んだ相談が増えるような施策も実施する。	相談者が増え、相談枠がボトルネックになる中で、相談回数が多い事業者への対応が適切か、ただらと通っているのではないかと疑問がある。BIZモデルのあり方も含め検討の必要がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業 名称	商工会	所管部 署	課名 産業総合支援課
----	---	------------	-----	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
6-2	地域経済の振興		1	既存企業への支援及び地場産業の育成

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	商工会
協働実施手法	1-2 補助金

具 体的 な 対 象	商工会は、国や都道府県の小規模企業施策（経営改善普及事業）の実施機関でもあり、中小企業や小規模事業者が主な対象となる。	⑨ 対 象 者 の 母 数	商工会 会員数 574事業所
------------------------	---	---------------------------------	-------------------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	会自体は、その地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資し、国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。
--------------------------------------	--

事 業 内 容	商工会は「法律」に基づいて、国・県の許可により設立された法人で、地域の商工業者ばかりでなく、地域全体の社会福祉に貢献する総合経済団体であり、町と連携して、事業者支援を行っている。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費（～R4決算額・R5予算額）	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円						7,038		6,734	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	これまでどおりの補助金支援とする。
-------	----	-------------	-------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証（PDCAサイクル）を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		

来年度から

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。
 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	中小企業・小規模企業振興基本条例ができたことで、行政と商工会の役割が明確になり、会議体でもそれぞれの立場からの意見交換が可能となった。	中小企業・小規模企業振興基本条例により発言できる機会が増えたことで、商工会の意義の周知ができる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	事業者支援における中小企業・小規模企業の活動の周知において、相互の密な連携が必要になる。	商工会で行う部分の強化のためには、行政からの補助金の増加等の検討が必要である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業名称	広陵町統計協会	所管部署	課名 産業総合支援課
----	---	--------	---------	------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町統計協会
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	公募及び区・自治会からの推薦者を会員として登録	⑨ 母 数	45
----------------------------	-------------------------	-------------	----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	国指定統計調査を始めとする、各種統計に関する調査の刷新改善、統計知識の普及向上及び会員相互の親睦を図る。
--------------------------------------	--

事 業 内 容	国指定統計調査及び各種統計調査の調査員として従事。研修等の実施、参加による統計調査の知識向上 町の依頼による交通量調査及びイベントの来場者数調査
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		406		0		0		406	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	2	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					20	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	C	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	協会の存在によって、調査員の任命、推薦を円滑に実施することができた。	研修等による円滑な調査活動の習得 調査員同士の親睦による調査活動の情報共有及び相互支援
協働することで感じた課題や今後の方向性	(課題) 会員の高齢化、登録会員不在の調査区域の対応(方向性) 会員募集機会の増加	会員の高齢化、地元調査区域以外の調査対応

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業 名称	広陵かぐや姫まつり	所管部 署	課名 産業総合支援課
----	---	------------	-----------	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方 向	番号	展開方向名
	6-2	地域経済の振興		1	地域特性を活かした観光・交流機能の創出

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	実行委員会の各参加団体
協働実施手法	2-3 実行委員会

具 体的 な 対 象	① ステージ企画・ブース企画に於いて、日ごろの活動を発表する団体や個人。 ② ステージ企画・ブース企画に参加する連携市町村、近隣市町村からの来町者。 ③ 運営をサポートするボランティア参加者。 ④ イベントに来場する一般参加者(町民及び、近隣市町村の住民)	⑨ 対 象 者 の 母 数	35,000人以上
------------------------	---	---------------------------------	-----------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	地域で活発に活動する団体や個人の発表の場を創出し、イベント参加を通じて地域住民が広陵町の魅力を再認識する。また、魅力あるイベントを企画・開催することでニュース価値を高め、町外における知名度向上や、観光客誘致によるイメージアップに繋げる。
--------------------------------------	--

事 業 内 容	竹取公園みんなの広場を主会場として、各種物産展やステージイベントを中心とした広陵町を代表するまつり。実施に当たっては、音響を含むステージ設備、テント等の出展用什器を配置し、電源を敷設する。また、広陵町内各種団体がPRする公共ブースや飲食店や靴下等の特産品販売を行う。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		10,010		11,000	

今後の方針 継続 拡大・縮小・廃止の理由 町内で活動する個人及び団体の貴重な発表の場となっているため。

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	2	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
		合 計							20
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			C

来年度から

↑ 自動計算

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	実行委員会での協議を通じ、区長自治会長会の提案によって「町民ボランティア」の枠組みが作られ、それに呼応した文化協会の提案によって、写真クラブが参加する等、具体的な動きに繋がった。	イベントに協力したことで、エコールマミでの写真展という発表機会に繋がった。協力したい姿勢はあるが、どう協力するべきか、主体的に考えるにしても、少し早めの情報共有が欲しい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	イベントを準備する中での提案であったため、動きが後手に回ることになった。しかし、十分な準備のために次年度に回すと、行動は起きなかった可能性があり、拙速でも行動を優先するべきと考える。	初年度に感じた協働に必要な情報不足は、行動が起きたから分かった面がある。2年目の改善として、早めの情報共有と十分な相談期間が確保できる。他の取り組みも同様になると思われる。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	7	事務事業名称	中小企業・小規模企業振興会議	所管部署	課名 産業総合支援課
----	---	--------	----------------	------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	6-2	地域経済の振興		1	既存企業への支援及び地場産業の育成

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町中小企業・小規模企業振興会議委員 他、町内の中小企業・小規模企業
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	「広陵町中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき、設備投資や新商品開発、自社のデジタル化といった同条例に定められる「がんばる企業」に該当する事業者	⑨対象者の母数	1,035事業者 ※令和3年経済センサス-活動調査における本町の全事業者
--------	--	---------	---

目的・期待	町内の事業者におけるソフト・ハード両面の課題解決を支援するため、現状の課題把握及び資金面の支援等を実施する。
-------	--

事業内容	「広陵町中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき開催する、①「中小企業・小規模企業振興会議」、②全体委員会、③作業部会、④運営部会 等において、町内事業者や学者、近畿経済産業局等の職員、金融機関等の産学官金が連携し、本町の今後の産業振興に必要となる施策を検討し、実行していく。 加えて、本条例制定を契機に、本町が地方創生推進を実施していくにあたり、近畿経済産業局、奈良県、本町の3者間で平成30年に連携協定を締結しており、連携を強固にし、事業者支援を実施していく。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円				26,990		7,578		12,912	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	効果的な補助金による支援及び事業者の課題、ニーズ喚起を行う。
-------	----	-------------	--------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	各種補助金の新設や補助金内容の変更など直接的な支援とビジネスサポートセンター等による課題解決をサポートする事業による間接的な支援により、条例に則したがんばる企業の推進に繋がった。	会議等を通して、町内事業者の横の繋がりや同業種、他業種の繋がりが生まれ、自社だけではなく大きな範囲での産業発展に寄与できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	事業者からのニーズ喚起において課題等はあるが、行政での支援には限度があるため、民間活力を通じた制度設計が必要である。	補助金支援は一過性の支援であり、ビジネスサポートセンターはじめ、雇用等の継続的な支援又は事業者が自立する仕組みが必要である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	8	事務事業 名称	広陵金明太鼓保存会	所管部 署	課名 産業総合支援課
----	---	------------	-----------	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用		1	文化芸術の振興

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵金明太鼓鼓手の会
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	広陵金明太鼓鼓手の会	⑨ 対 象 者 の 母 数	14 (内、休会中 5)
----------------------------	------------	---------------------------------	-----------------

目的・
成
果
・
期
待

迫力のある太鼓を活かした演奏とともに地域おこしの活動を行う「広陵金明太鼓」を、広陵町の郷土芸能として位置づけ、広く町民の手によって伝承・保存されることを推進していく。

事業
内
容

(1) 鼓手の募集及び育成
①出演イベントでのチラシ配布 ②出演イベントでのブース出展
(2) 技術鍛錬及び各種研究・研修
①「技術鍛錬」として週2回(火・木曜日) ②各種研究・研修の実施及び参加
(3) 地域振興活動への参加及び出演

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		331		327		377		888	維持

今後の方針 継続 拡大・縮小・廃止の理由 活動の伝承・保存を目的としているため。

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	1	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	1	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	2	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	1	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	1	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	1	
		合 計							
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価			
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下	10	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	令和4年度後半から、コロナ禍による活動自粛の緩和が進み、練習やイベント出演が平常に戻った。10月にはかぐや姫まつり、天平祭、1月には大立山まつり等、大型イベントにも出演ができた。	イベントへの出演は積極的に行う。1日2か所のブッキングであっても、可能な限り時間を調整して対応するので、速やかに情報共有をして欲しい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	鼓手が減少しており、出演イベントでのブース出展やチラシ配布等、発信活動を行う必要がある。また、目的に照らし、行政に依存した運営体制も町民の手に委ねる施策を検討する必要がある。	出演時間以外でイベントに残れるメンバーがおらず、鼓手の会で発信活動の対応はできない。また、町民による運営という方向は、鼓手の会として全く考えておらず、自立するつもりはない。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	農業委員会	所管部 署	課名 広陵町農業委員会
----	---	------------	-------	----------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	6-1	農業の振興		1	農業生産基盤の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	農業委員・農地利用最適化推進委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	広陵町農業委員会委員・農地利用最適化推進委員	⑨ 母 数	20
----------------------------	------------------------	-------------	----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	広陵町農業委員会委員・農地利用推進委員と協力し、農地パトロールや利用状況調査を実施することで遊休農地発生の防止や無断転用に対する早期指導等
--------------------------------------	---

事 業 内 容	【農地パトロール】 普段の生活の中等で、周辺の農地を確認し、転用履歴のない土地における造成行為等の有無を確認する。 【利用状況調査】 地図を活用して、不耕作地がないかを現地確認し、不耕作地所有者に対してサポートセンターを紹介する等農地の流動化を図り耕作放棄地の発生を未然に防ぐ。
------------------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		9,264		9,035		10,950		10,939	(ブルダウン選択)

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
							B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	耕作放棄地の発生の防止	年々、仕事が増えている。 国は簡単に言うが、委員はついて行けない。
協働することで感じた課題 や今後の方向性	土地所有者への農地法周知不足	国はICT化を進めているが、委員には高齢者が多く機器の使用が難しい。慣れれば楽になることは分かるが、そこまで到達することが難しい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	健楽農業	所管部署	課名 農業振興課
----	---	--------	------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	6-1	農業の振興		2	意欲ある担い手の育成・確保

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	健楽農業参加者
協働実施手法	3-2 意見交換

具体的な対象	健楽農業参加者	⑨対象者の母数	20
--------	---------	---------	----

目的・期待
農地を所有しない、家庭菜園では物足りない、本格的な農業に不安がある住民等に対して、グループで農業することで農業技術の向上、販売をすることで、経験を積み重ね、グループの法人化や農業者への誘導を図る。

事業内容
非農家対象事業のため、町が土地を借り上げ、当該土地をグループに貸し出す。グループ内で共同管理区域と個人管理区域に分け耕作し、農作物の栽培から販売までを共同で実施する。定期的にミーティングする等により情報交換し、農業技術の向上をはかり、グループの法人化や農業者への誘導を図る。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		40		40		47		47	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
合計								21
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		B

来年度から

↑ 自動計算
左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	耕作放棄地の解消等	運営がうまくいっており、土地が不足気味である。
協働することで感じた課題や今後の方向性	団体の法人化や就農への移行の難しさ	団体の法人化・個人での就農等次の段階への移行が難しい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業名称	広陵ファミリー農園	所管部署	課名 地域振興部 農業振興課
----	---	--------	-----------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	6-1	農業の振興		2	意欲ある担い手の育成・確保

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	ファミリー農園利用者
協働実施手法	3-2 意見交換

具体的な対象	ファミリー農園利用者	⑨対象者の母数	126
--------	------------	---------	-----

目的・期待	家庭菜園から一步踏み出した利用者(農業者未満)と意見交換することで、農家への誘導を図る。
-------	--

事業内容	町が借り受けた土地を整備(区画設置・上水道配管)し、公開抽選にて農園利用申込者自らがくじを引き利用区画を決定する。利用期間は3年とし、1期(3年)のみ更新が可能。
------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		1,200		718		532		724	縮小

今後の方針	縮小	拡大・縮小・廃止の理由	農業を取り巻く状況が変化し、一定の役割を達成したため。
-------	----	-------------	-----------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
					合 計		21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	農作物栽培の楽しさ等農業に触れてもらえる機会を創出できた。	利用者の区画以外の通路・法面といった共有スペースの管理について草刈り等の回数を増やしてほしい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	・利用者が年々減少しており、事業自体が一部の利 用者のみのためになりつつある。 ・農地を取り巻く現状と事業のあり方にズレが生じている。	公共事業であるが故の草刈り等の管理頻度の制限

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	令和4年度広陵町パークゴルフ場指定管理料	所管部署	課名 都市整備課
----	---	--------	----------------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
5-3	スポーツの振興		2	スポーツ施設の適正管理・有効活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	指定管理者(株式会社ハウズビルシステム)
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	広陵町内のパークゴルフ場 3箇所	⑨対象者の母数	箇所
--------	------------------	---------	----

目的・期待	広陵町が整備したパークゴルフ場の利用者の利便性向上と施設の適切な維持管理および運営により、誰もが快適にスポーツをできる環境を整える。
-------	--

事業内容	指定管理者制度により、管理・運営を委託 令和5年度～令和9年度までの5年間
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		1,900		1,900		1,900		1,800	縮小

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	施設の充実や自主事業の取組により利用者数が増加。職員の採用は町内を中心に行い、雇用の促進が図られた。	町内の農家との連携による野菜販売や、かぐや姫祭りでのバターゴルフ体験の実施などパークゴルフ以外にも町と関わりができて、好評であった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	近隣の市町村で、新たにパークゴルフ場の設置の動きがあり、利用者の取り合いによる、利用者数の減少が危惧される。	利用料金の高い町外利用者数を増加させる必要がある。 キャリアのある現場作業員の高齢化のため、全従業員にスキル継承をいかにさせていくかが課題である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	都市計画審議会	所管部 署	課名 都市整備課
----	---	------------	---------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	2-1	地域特性を活かしたまちづくりの推進		1	計画的かつ秩序ある土地利用の誘導

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	都市計画審議会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	学識経験者、町議会議員からなる都市計画審議会委員	⑨ 対 象 者 の 母 数	15人
----------------------------	--------------------------	---------------------------------	-----

目的・期待
町の基本的な都市計画を樹立するため必要な事項について、町長の諮問に応ずる機関として設置されており、町議会議員（現在5人）と学識経験者（現在10人）の合計15人の委員から構成されている。都市計画決定が必要な案件の審議を行うことが主目的だが、都市計画に関する情報を共有し、さまざまな分野及び立場からの意見を聞き、計画等に反映できるようにしている。

事業内容
都市計画決定が必要な案件の審議、及び都市計画決定が必要でなくても、まちづくりに関して大きな影響が考えられる計画等についての情報共有及び意見の聴取など
※審議会は年数回（近年は市町村のまちづくりに対する考え方が重視される傾向にあり、2～3回は開催されている）

(ウ) 事業費

事業費（～R4決算額・R5予算額）	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		421		421		421		421	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1				
と て も で き た	そ れ な り に で き た	ど ち ら で も な い	あ ま り で き な か つ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら	
				対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4		
				自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4		
				相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4		
				情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2		
				評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証（PDCAサイクル）を行ったか。	1		
				相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4		
合 計						24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	委員からの要望もあり、当日の資料を事前配布したり、審議案件については、前もって審議予定案件として、目的や概要について説明したりすることにより、各委員から多角的な意見を得られるようになった。	
協働することで感じた課題や今後の方向性	都市計画決定が必要とされる案件についてはスケジュールの制約があるものも多く、意見が多くなると賛同を得られず、再審議となることもあった。スケジュールを遵守しつつ、多くの意見を反映していくための工夫を模索している。	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	広陵町上下水道事業経営審議会	所管部 署	課名 上下水道課
----	---	------------	----------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	2-3	将来にわたり持続的な上・下水道事業の推進		1	健全で持続可能な事業運営の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町上下水道事業経営審議会委員
--------	------------------

協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等
--------	----------------

具 体 的 な 対 象	上下水道事業に関し識見を有する者、需要家の代表者、公募による者	⑨ 母 数	10人
----------------------------	---------------------------------	-------------	-----

目 的 ・ 期 待	近年の節水意識の高まりや節水器具の普及により水需要が減少傾向にあることや、人口の減少により料金収入も減少することが見込まれ、財政状況は厳しくなるものと想定されることから、公募による委員を含めた審議会を開催し、上下水道事業の健全化とともに施設や管路の耐震化、長寿命化を計画的に実施するためさまざまな意見交換を行う。
-----------------------	--

事 業 内 容	上下水道事業経営の現状と財政状況、料金の適正化、今後の見通しなどについての意見交換など。 ※審議会は年に2回実施予定
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		32		80	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4
合 計								24
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価		B
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下		

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	さまざまな角度から上下水道事業への意見をいただき、改善点が明確になった。	上下水道事業の現状を知ることができ、今後の課題がわかった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	地域による考え方の相違があり、丁寧な説明が必要ではあるが、下水道料金の適正化に向け、現状を理解いただき実現化に取り組む。	下水道事業の財政状況について理解を深め、下水道料金の適正化について意見交換を行う。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	議会インターネット映像配信	所管部署	課名 議事課
----	---	--------	---------------	------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
7-1	効果的・効率的な行政財産運営の推進	3	質の高い行政サービスの提供

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	住民
協働実施手法	4 その他

具体的な対象	広陵町議会定例会、臨時会の本会議を動画撮影を行い、インターネットにて録画配信する。	⑨ 対象者の母数	住民
--------	---	----------	----

目的・期待成果	議会活動を知っていただき、議会に関心を持っていただくとともに、議決機関としての権能が十分発揮できるようになる。
---------	---

事業内容	議会定例会(年4回)及び臨時会開催時の本会議の様子を録画し、後日、広陵町のホームページにおいて動画配信を行い、議場での審議の様子や採決などを公開し、広く住民に周知する。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		307		1,056		1,056		977	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1				
ととも それな りにも でき た	あ ま り で き な か つ た	ど ち ら で も な い	全 然 で き な か つ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら	
				対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	2		
				自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	2		
				相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4		
				情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5		
				評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4		
				相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2		
合 計						23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	アクセス数が増加しており、議会に対する理解、関心度が高まっている。	いつでも自由に視聴可能であり大変便利であるが、質疑、答弁中に、専門的な用語が使われるときがありわかりにくい。できれば解説などを入れてもらうとわかりやすく、理解も深まる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	議会機能向上と、住民への積極的な情報発信を行うためのPRを積極的に実施する。	時代を担う若者に対して、理解・関心が高まるよう、子ども向け・若者向けの議会報告会やイベントなどを開催すると良いのでは。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	92	事務事業 名称	教育委員会	所管部 署	課名 教育総務課
----	----	------------	-------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	3-3	学校教育の充実		1	「生きる力」を育む教育活動の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	教育委員
協働実施手法	4 その他

具 体的 な 対 象	当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し見識を有するもの	⑨ 対 象 者 の 母 数	4人
------------------------	---	---------------------------------	----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	教育に関する豊富な知識と経験をもつ教育委員からの意見を教育行政に関する施策に反映することを目的とする。地域の抱える教育課題を捉え、より一層民意を反映した教育行政を実現していく。
--------------------------------------	--

事 業 内 容	地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び広陵町教育委員会会議規則に基づき、定例会議を開催し、教育行政に関する重要事項等を審議する。
------------------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		1,104		1,104		1,104		1,104	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5	
		合 計					29	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	ICTを活用した教育や外国語教育など時代の変化や新たなニーズに対応した教育、不登校やいじめ、学力保障などの近年の重要な教育課題に対応した教育に連携して推進することができた。	広陵町の子どもたちの傾向や課題についてくわしく知ることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	保護者、地域住民に教育の問題への関心と教育施策への共有、理解、そして協力の推進をしていきたい。	社会の変化や家庭環境の多様化等の問題に対して、これからの子どもたちに「生きる力」を育む教育活動を行政と連携して支援していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	93	事務事業 名称	教育振興基本計画等策定委員会	所管部 署	課名 教育総務課
----	----	------------	----------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
		学校教育の充実、生涯学習の推進、スポーツの振興等			複数施策に該当するため選択不可

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	教育振興基本計画等策定委員会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	教育長職務代理人、教育委員、社会教育委員、広陵町PTA連絡協議会会長、広陵町幼・小・中PTA連絡協議会、広陵中学校長、真美ヶ丘第二小学校長、北かぐやこども園長	⑨ 対 象 者 の 母 数	11
----------------------------	---	---------------------------------	----

目 的 ・ 期 待 成 果	<p>■目的 当該委員会は、次に掲げる事項について、調査、研究、調整及び協議を行う。 (1) 教育振興基本計画の策定及び見直しに関すること。 (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会の所管に係る計画又は方針の策定に関し、教育委員会が必要と認める事項</p> <p>■成果 ・令和4年3月に広陵町教育振興基本計画を策定し、R4年度は当該計画の指標進捗と評価を行った。</p>
---------------------------------	---

事 業 内 容	教育基本法(平成18年法律第120号)第17条第2項に規定する教育振興基本計画その他教育に関する重要な計画又は方針を策定の実施。 計画策定後は、計画の設定指標数値の進捗を毎年PDCAサイクルを回し、評価を行っている。 なお、評価年度中は年間2回の委員会開催となっている。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		1,538		24		32	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	R8年度を計画の終期としており、毎年の評価等が必要なため。
-------	----	-------------	-------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2
		合 計					21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	指標進捗と評価に関して、専門的な意見が得られた。	指標進捗など、委員間での情報共有できたことにより、現在の状況を共通認識を持ち、次なる打ち手などを検討する機会となった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	評価1年目であったため、指標値の評価に対する今後のあり方なども協働により検討していきたい。	評価1年目であったため、指標値の評価に対する今後のあり方なども協働により検討していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	94	事務事業 名称	学校給食委員会	所管部 署	課名 教育総務課
----	----	------------	---------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	3-3	学校教育の充実		2	安全・安心で快適な教育環境の整備

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町学校給食委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	町内小・中学校PTA代表、各学校長、栄養教諭及び学校栄養職員	⑨ 母 数	25名
----------------------------	--------------------------------	-------------	-----

目 的 ・ 期 待 成 果	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食の充実発展と運営の合理化を推進することを目的とする。 <p>【期待成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食における現状や課題について委員と共有することで、工夫改善策を検討する機会となり、より安全安心で美味しい給食を提供することで、残食率の低下が期待される。 物資検品を行い、結果を納入業者へフィードバックすることで、より新鮮で良質な物資を納入することに繋がる。
---------------------------------	---

事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 年に3回程度実施。 前年度事業実績及び当該年度事業計画について報告。 納入物資検品 給食試食
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		4		141	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		4	来年度から	
					目的共有	4		
					対等性	4		
					自主・自立	3		
					相互理解	3		
					情報公開・透明性	3		
					評価・見直し	3		
					相互変革	3		
合 計						23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	保護者の意見を直接聞く場となり、意見を給食に反映させることができる。	行政の現状、保護者の意見を互いに知ること、安心安全である給食を継続していくための課題を共有することができる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	保護者代表は毎年メンバーが変わるため、意見交換にばらつきがあることが課題。今後は積極的な意見交換ができるように働きかける。	保護者代表のみならず、担当が変更することで課題意識の共有に困難があったと考えられるため、日頃より現状を広く発信し給食に関心をもってもらうように働きかける。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	広陵放課後塾運営事業	所管部 署	課名 学校支援課
----	---	------------	------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	3-3	学校教育の充実		1	「生きる力」を育む教育活動の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町内や近隣市町村在住あるいは通学する成人
協働実施手法	2-8 人材

具 体 的 な 対 象	・町立小学校に在籍する小学校3年生。	⑨ 対 象 者 の 母 数	375人 (R4.5.1現在)
----------------------------	--------------------	---------------------------------	--------------------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	(目的) ・義務教育段階で学習内容が高度化する小学校3年生を対象として、学習面でのつまづきの減少や学習習慣の定着を意図して、学習の基礎となる国語、算数の基礎学力の定着と向上をめざす。 ・地域の学力指導に係る経験豊富な人材を活用し、地域教育力の強化に資することをめざす。 (R4成果)・6月から3月まで30回実施。児童 113人、指導員35人の参加。延べ、児童 3,082人、指導員911人参加。 (R4アンケート結果)学習したことがよくわかったと答えた児童 85.2% 基礎学力を身につけることに役立ったと答えた保護者 91.4%
--------------------------------------	---

事 業 内 容	平成31年から実施。学習内容が難しくなる学年を対象とした、学習習慣の定着や基礎学力向上並びに学習意欲向上等につながる支援事業。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		396		1,207		1,888		2,330	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	継続ではあるが、指導主事の他の業務を逼迫しており業務の見直しが必要である。
-------	----	-------------	---------------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	2	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開 ・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
					合 計		20	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	C	
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政主導で行っている事業であり、指導の内容の質の担保や指導員の募集に関し、地域との協働を考えると、指導員の確保という点では協働可能ではないかと考える。	
協働することで感じた課題や今後の方向性	子どもに直接的に関わる事業のため、協働したいと考える人が全て本事業に参加することは難しい。参加者からは一定の好評価を得ているため参加人数が年々増加している。このため、指導員の確保が難しくなっている。	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	広陵町有線放送設備設置事業に係る補助金(中区)	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	---	--------	-------------------------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-2	地域コミュニティの育成	2	コミュニティ施設の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	有線放送設備を維持管理する区・自治会
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	有線放送設備を維持管理する区・自治会	⑨対象者の母数	8,183世帯 (R5.3末世帯数)
--------	--------------------	---------	-----------------------

目的・期待	有線放送設備を設置又は老朽化した設備を更新することにより、大字内での情報共有を図るとともに、災害時における緊急情報の伝達にも活用することができる。
-------	---

事業内容	有線放送設備設置に要する5万円を越える機器設備費及び配線材料工事費の4分の1以内の額(上限100万円) ※令和4年度の中区については、新清掃施設周辺環境整備事業として、別枠で実施。
------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		64		186		5,342		934	縮小

今後の方針 縮小 拡大・縮小・廃止の理由 スマートフォンの普及等により情報伝達手段が多様化されてきているため。

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	1
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	1
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	1
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	1
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	1
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	1
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	1
		合 計					7	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	E	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	特になし	事業費の補助は、自治会にとってありがたい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	区・自治会における有線放送設備の導入がまばらであること、また、情報伝達手段の多様化が進んでいるため、事業縮小、廃止を検討すべきである。	整備している自治会には、補助を続けてほしい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	青少年健全育成事業	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	---	--------	-----------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
3-2	青少年の健全育成	1	健全な成長を育む社会環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	青少年健全育成協議会委員
--------	--------------

協働実施手法	1-2 補助金
--------	---------

具体的な対象	香芝警察少年補導員広陵(東・西)ブロック(補助団体)・奈良県青少年指導員・広陵町主任児童委員・幼保子ども園長・小中学校長・教職員・PTAなどからなる青少年健全育成協議会委員	⑨ 対象者の母数	55
--------	--	----------	----

目的・期待	将来のまちづくりの担い手となる子どもが、強い自覚と自信を持って明るく健やかに成長していけるまちを目指すべく、下校時の見守り活動や各種巡視活動など公益的な活動を支援する。
-------	--

事業内容	(1) 青少年に関する相談 (2) 青少年の健全育成に関する啓発活動 (3) 青少年の健全育成に関する指導 (4) 青少年の生活実態に関する調査及び統計 (5) その他目的達成に必要な活動
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		41		41		41		41	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	1
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計					21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	青少年が犯罪に巻き込まれないよう町全体で見守る体制が執られている。	メンバーの高齢化が懸念されるところであるが、なり手がない。
協働することで感じた課題や今後の方向性	青少年の非行の現状が多様化、複雑化する中で、いかに効果的な活動を行うか。	協議会自体が自主性をもって活動できるよう考えたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	婦人会事業補助金	所管部 署	課名 生涯学習文化財課
----	---	------------	----------	----------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	5-2	地域コミュニティの形成		1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	婦人会会員
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	婦人会会員	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	55人
----------------------------	-------	---	-----

目 的 ・ 期 待	家庭及び地域社会の発展に寄与することを目的として、地域に根差した女性の健康増進及び社会参画、消費生活の合理化などの婦人活動を行っている。町の各種事業への参画・協働を行うとともに、災害時の支援活動体制確保の一翼を担っている。
-----------------------	---

事 業 内 容	環境保全活動(違反広告物撤去)や福祉活動(独居高齢者に配食)、赤十字奉仕団の活動、町・郡・県主催事業への参加等
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		267		128		237		267	廃止

今後の方針	廃止	拡大・縮小・廃止の理由	婦人会休会のため
-------	----	-------------	----------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1				
と て も で き た そ れ な り に で き た ど ち ら で も な い あ ま り で き な か つ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。					4	来 年 度 か ら
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。					3	
	自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。					4	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。					4	
	情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。					2	
	評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。					3	
	相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。					3	
合 計						23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	町主催事業に参加いただき、自己研鑽と共に婦人会活動へ還元された。	社会教育団体として必要な活動について行政からのサポートが得られた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	令和4年度をもって休会のため、協働での活動はほぼなくなる。	休会に伴い、婦人会の在り方及び協働についても再考の必要がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業名称	広陵町PTA連絡協議会事業補助金	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	---	--------	------------------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	3-2	青少年の健全育成		1	健全な成長を育む社会環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	PTA会員
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	町内の幼稚園・こども園・小学校・中学校に子どもが通う保護者	⑨ 母 数	3,047人
----------------------------	-------------------------------	-------------	--------

目 的 ・ 期 待	町内幼稚園・小学校・中学校教育振興及び園児・児童・生徒の福祉を増進するため、各単位PTA相互の連絡調整並びに親睦を図り研究することを目的とする。
-----------------------	--

事 業 内 容	PTA指導者研修会、夏季会員研修会、PTA会員研修会、会長会議等
------------------	----------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		81		81	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2
		合 計					20	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	C	
							↑ 自動計算	

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	教師・保護者が協力し園児・児童生徒の学校・家庭における教育活動のための学びを提供することでより充実した活動内容を行ってもらえた。	PTA研修については意義を感じている一方、行政主導の傾向があるため、相互理解を深めていきたい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	会員のニーズにあった情報提供に努めていきたい。	参加してみるとすごく有意義な機会であるので、広く参加者を呼び込めるように工夫が必要と考える。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業名称	子ども会連合会事業補助金	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	---	--------	--------------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	5-2	地域コミュニティの育成		1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	子ども会会員
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	広陵町子ども会連合会に属する町内21の子ども会会員	⑨対象者の母数	769人
--------	---------------------------	---------	------

目的・期待	町内子ども会21団体が相互の連絡連携を図り、子ども会の活動を充実し、子ども達の健全な育成を図ることを目的とする。コロナ禍のため、研修会等は中止となり単位子ども会活動が主となった。
-------	---

事業内容	令和5年度広陵町子ども会連合会 総会、広陵町子ども会連合会KYT研修 令和5年度奈良県子ども会連合会 総会、クラフト講師養成講習会 奈良県子ども会連合会リーダー研修会、近畿地区子ども会大会等
------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		266		256		233		268	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1				
とてもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
合計						22	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		B

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	子どもたちの健やかな成長発達に大切な活動を地区毎で行っていただけた。	行政のサポートがあるからこそできる事業であると考えます。
協働することで感じた課題や今後の方向性	連合会としての活動をより充実させ、相互の連絡連携を促進していきたい。	毎年役員が替わるため、経験の蓄積ができない分、行政に頼る部分が多いが、引継ぎできる部分はしっかりしていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業名称	文化協会補助金事業	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	---	--------	-----------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用		1	文化芸術の振興

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	文化協会会員
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	文化協会に属する絵画部、写真部、書道部、俳画部、和風リフォームの会員	⑨対象者の母数	63人
--------	------------------------------------	---------	-----

目的・期待	広陵町における文化芸術事業の発展に寄与するとともに、会員相互の資質向上を図ることを目的とする。
-------	---

事業内容	広陵町文化祭での共催、庁舎及び関連施設への作品展示、エコーラマミでの作品展示、各部の研修会実施等
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		183		183		183		183	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
		合 計					24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	町の文化芸術活動を主体となって行うとともに、町民が芸術に触れるきっかけを創出していただいている。	文化芸術の発展には行政のサポートが不可欠であり、いかに注力するかで左右されると考える。
協働することで感じた課題や今後の方向性	文化協会会員の高齢化、会員数の減少による芸術活動に対する指導者の育成・確保が困難な状況にある。	指導者、後継者の確保が困難である。若い世代の参画を促す取り組みが必要と考える。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	7	事務事業 名称	文化財ガイド事業	所管部 署	課名 生涯学習文化財課
----	---	------------	----------	----------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用		2	文化財の保存・活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町文化財ガイドの会
協働実施手法	2-8 人材

具 体 的 な 対 象	広陵町文化財ガイドの会	⑨ 母 数	22人
----------------------------	-------------	-------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	広陵町民及び広陵町を訪れる観光客・見学者に、町内の歴史や文化財を案内、解説することを目的とする。町内の歴史、文化財に関する理解、認識の深化を推進する。
--------------------------------------	---

事 業 内 容	申込書によるガイド、一定の期間・地点で行う定点ガイド、企画ガイド、イベント時のガイド、自主研修
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		22		9		71		290	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	2
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	19	C

来年度から

↑ 自動計算

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	広陵町民及び広陵町を訪れた観光客・見学者に、町内の歴史、文化財への理解、認識を深めてもらうことができた。	行政のサポートや補助によって成り立つ事業であり、行政側の注力量によると考える。
協働することで感じた課題や今後の方向性	調整不足や認識の違いによる不具合が多い。	研修や勉強会を増やし知識の向上に努めたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	8	事務事業名称	広陵古文化会事業	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	---	--------	----------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用	2	文化財の保存・活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵古文化会
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	広陵古文化会会員	⑨対象者の母数	394人
--------	----------	---------	------

目的・期待	郷土に残された豊かな文化財の発掘、探求、顕彰及び保存を目指し、あわせて会員の知識を深めることを目的とする。町の文化財保護及び文化財保護行政への協力、住民の文化財保護意識の高揚が期待できる。
-------	--

事業内容	講演会や研修会の開催、文化財の維持・保存、文化祭・文化財防災訓練などへの協力
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		183		183		183		183	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価			
5	4	3	2	1	目的共有	4	来年度から			
					対等性	3				
					自主・自立	4				
					相互理解	4				
					情報公開・透明性	2				
					評価・見直し	3				
					相互変革	3				
合計						23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。			
総合評価					A評価 35～26	B評価 25～21		C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	定期的な活動により文化財保護行政への協力が得られ、住民の文化財保護意識の高揚を行うことができた。	行政に協力することで住民の文化財保護意識の高揚に寄与できていると考える。
協働することで感じた課題や今後の方向性	会員の高齢化、減少により、活動が縮小していくと考えられる。積極的な情報公開を行うことにより、会員の増加、活動の活性化を図る。	後継者不足が懸念されるため、会員を増やし後継者育成を図る必要がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	9	事務事業 名称	二十歳のつどい事業(実行委員会)	所管部 署	課名 生涯学習文化財課
----	---	------------	------------------	----------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
3-2	青少年の健全育成		1	健全な成長を育む社会環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	二十歳を迎える町民
協働実施手法	2-3 実行委員会

具 体 的 な 対 象	当該年度内に二十歳を迎える町民	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	394人
----------------------------	-----------------	---	------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	二十歳という節目の年に新たな想いを感じることでできる式典となるよう、実行委員会による自主的な運営を行った。 参加者の実績 ●校区 ●対象者 ●参加者 ●参加率 広陵中学校校区 210人 154人 73.3% 真美ヶ丘中学校校区 184人 128人 69.6% 参加者へのWEBアンケートでは、76%の新成人が「成人としての思いを新たに感じる事ができた」と回答した。
--------------------------------------	--

事 業 内 容	式典当日のアトラクションの企画・司会進行、二十歳の誓い、記念品授与等を参加者を代表して行った。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		794		816		827		1,044	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
合 計							23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	当事者目線で式典を作り上げることで、参加者の思い出に残る式典を開催できたとともに、二十歳となったことについて自覚を新たにできた。	行政主体の式典ではなく、自分たちが作り上げることで、世代にあった内容にできる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も実行委員会による企画立案を行い、その年のカラーが出る式典を開催したい。	ノウハウの蓄積、継承ができない。もう少し記念品をよくしたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	105	事務事業名称	大垣内立山保存会事業	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	-----	--------	------------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用	2	文化財の保存・活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	大垣内立山保存会
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	大垣内立山保存会	⑨対象者の母数	56人
--------	----------	---------	-----

目的・期待	広陵町無形民俗文化財に指定されている、伝統行事である立山祭の継承を目的とする。
-------	---

事業内容	話題となった出来事や有名になった人物を「作り物」として作成し、毎年8月24日の地藏盆に地藏堂、立山会館、公民館及び個人の家に飾り付ける。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		115		115		115		115	維持

今後の方針	(選択) 拡大・縮小・廃止の理由
-------	------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
					合 計		23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	伝統行事を維持・継承することができた。	伝統文化の維持、継承は行政の力が必要であり、地元が活性しコミュニティの維持ができている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	会員の高齢化、減少により行事の継承が困難になっていくと考えられる。若い世代や転入者の参加が必要と考えられる。	同左

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	11	事務事業 名称	社会教育委員会議	所管部 署	課名 生涯学習文化財課
----	----	------------	----------	----------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
5-1	生涯学習の推進		1	住民一人ひとりが学ぶ機会の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	社会教育委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	社会教育関係者、学識経験者、家庭教育関係者からなる委員会	⑨ 母 数	6人
----------------------------	------------------------------	-------------	----

目 的 ・ 期 待	社会教育に関し教育委員会に助言することを目的とする。社会教育分野において、さまざまな立場から助言をいただくことで事業の見直し、新設を行うことができた。
-----------------------	---

事 業 内 容	年3回の社会教育委員会議の開催のほか、世代間交流事業の開催・町内に関わる(祭り・民話等)冊子作製事業、文化祭への協力を行う。
------------------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		136		134		253	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価		
5	4	3	2	1	目的共有	4	来年度から		
					対等性	4			
					自主・自立	4			
					相互理解	4			
					情報公開・透明性	4			
					評価・見直し	4			
					相互変革	4			
合 計						28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。		
総合評価					A評価 35～26	B評価 25～21		C評価 20～16	D評価 15～11

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	社会教育に関して、さまざまな視点で意見を貰うことで事業の見直しができた。また、主催事業である世代間交流の開催で、関わり合いが少ない世代同士で共に学びあえる場の提供ができた。	行政とともに社会教育の必要性を考え住民に還元できる機会を設けることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も社会教育に関する助言をいただくとともに、世代間交流事業・冊子作成事業については社会教育委員が主体となっただき連携していきたい。	行政における社会教育の在り方や、対象の広さから事業の難しさがあるが、義務教育、学校教育では育めないものを行政とともに行えればと考える。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	12	事務事業名称	与楽寺収蔵庫管理委託事業	所管部署	課名 生涯学習文化財課
----	----	--------	--------------	------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用	2	文化財の保存・活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広瀬区
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	広瀬区(与楽寺十一面観音立像保存会)	⑨対象者の母数
--------	--------------------	---------

目的・期待	重要文化財の与楽寺十一面観音立像の管理者である広瀬町が建設した収蔵庫の維持・管理を目的とする。除草、清掃などを行うことにより、収蔵庫内外の美観を保ち、見学者に好印象を与える。
-------	---

事業内容	収蔵庫の維持管理に関する業務(電気代を含む。)、収蔵庫敷地の除草清掃に関する業務、見学者に対する利益供与に関する業務
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		170		170		170		170	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	施設の維持・管理が適切に行われ、見学者などに好印象を与えることができた。	町から収蔵庫の管理委託を受けて管理することで、地域に重要文化財があることに誇りを感じる。今後も町のサポートのもと、地元での管理を続けたい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	会員の高齢化、減少により作業の維持が困難な状況になっていくと考えられる。	後継者の育成が急務と考える。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	108	事務事業 名称	町内史跡管理委託事業	所管部 署	課名 生涯学習文化財課
----	-----	------------	------------	----------	----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用		2	文化財の保存・活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵古文化会
協働実施手法	1-1 委託

具 体 的 な 対 象	広陵古文化会役員	⑨ 母 数	38人
----------------------------	----------	-------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	町内に所在する史跡の維持・管理を目的とする。草刈、清掃などを行うことにより、見学しやすい環境を整える。
--------------------------------------	---

事 業 内 容	巢山古墳の草刈・倒木伐採、牧野古墳の草刈・植栽剪定・周辺清掃、三吉石塚古墳の草刈・植栽剪定・周辺清掃
------------------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		1,634		1,634		1,634		2,178	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	2	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	定期的な草刈や清掃作業により、史跡の美観が維持され、見学しやすい環境が整った。	行政に協力することで史跡の美観維持に寄与できていると考える。
協働することで感じた課題や今後の方向性	役員の高齢化、役員数の減少により、将来的に作業量の維持が困難な状況になっていくと考えられる。自走式草刈機や乗用草刈機の導入を検討するとともに、次の担い手の育成が必要。	後継者不足が懸念されるため、会員を増やし後継者育成を図る必要がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	令和4年度 広陵町スポーツ協会補助金	所管部署	課名 スポーツ振興課
----	---	--------	--------------------	------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-3	スポーツの振興	1	多様なスポーツ活動の善及促進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町在住・在勤者
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具体的な対象	広陵町在住・在勤の老若男女	⑨対象者の母数	35,000人
--------	---------------	---------	---------

目的・期待	広陵町民のスポーツの発展と普及を図り、スポーツ精神の振興に寄与する。
-------	------------------------------------

事業内容	生涯スポーツの啓発をおこない、健康づくりやスポーツの楽しさを広め、地域スポーツの促進に努める。
------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		3,050		4,050		4,050		4,050	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
					合 計		22	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	スポーツイベントを企画するにあたって、スポーツ協会の役員等、つながりが深まった。	日々のクラブ活動を通して、精神的にも身体的にも健全な生活を送れている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	コロナ期間、やりたくてもできない状況が多かったが、さまざまな催しが再開された今、スポーツにおいても多角的な視点から、協働の可能性を考えていく。	生涯スポーツということで、人生を通してためになるような活動ができれば。

令和 5 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	中央公民館育成クラブ活動事業	所管部署	課名 中央公民館
----	---	--------	----------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
5-1	生涯学習の推進	1	住民一人ひとりが学ぶ機会の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町在住・在勤者
協働実施手法	2-5 施設・設備

具体的な対象	育成クラブ会員と、今後育成クラブに入ろうと考えている広陵町在住・在勤者	⑨対象者の母数	35,000人
--------	-------------------------------------	---------	---------

目的・期待	学習活動による知識・技術の習得だけでなく、活動を通じて地域社会への奉仕の精神を育むとともに、豊かな人間性の育成を図り、地域の連帯意識を高める。
-------	---

事業内容	住民同士の連帯感を深め、地域コミュニティの活性化に結びつくよう、活動の場や発表の機会を充実させる。
------	---

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	3	R	4	R	5	R	6	今後の事業費の方向性
事業費	千円		20		20		20		20	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 5 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計							23
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価		B	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下			

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	イベントや展示に初めて参加される方が増えた。	子どもから大人まで参加できるような、興味深い事業が多かった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	幅広い世代の住民が、様々な文化芸術に触れ、楽しめる機会を増やすことや、地域主体の文化芸術活動にも参加しやすい環境づくり	行政に任せるのではなく、日々の活動で感じる意見や要望を積極的に投げかけていき、協働の形が確立されれば。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	おはなし会	所管部 署	課名 図書館
----	---	------------	-------	----------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	5-1	生涯学習の推進		1	住民一人ひとりが学ぶ機会の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	おはなしボランティア
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具 体 的 な 対 象	図書館利用者:主に子ども(小学生以下)を対象とする。	⑨ 母 数	35,222人 (R5年3月末 広陵町人口)
----------------------------	----------------------------	-------------	------------------------------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	読書に興味がない子どもが「おはなし会」の参加により親しみを覚え、また、定期開催のため図書館利用の習慣が身に付く。図書館や本を利用するきっかけづくりや親子の交流の場となっている。
--------------------------------------	--

事 業 内 容	毎週土曜日の午後におはなしボランティアと協働で絵本の読み聞かせなどを行う「おはなし会」を開催している。
------------------	---

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円						0		13	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	毎週土曜日に欠かさず「おはなし会」を開催することができ、参加者が増えてきた。また、団体ごとに特性があるため、毎週ちがった趣があり参加者が飽きることなく魅力的な事業になっている。	コロナ禍により発表の場が少なくなっていたが、「おはなし会」で活動が確保できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	将来を担う子どもたちにとって重要な事業であり、今後も継続していく。ボランティア間の交流がないため、団体ごとに活動のバラつきがある。団体間の協働も図ることで、よりよい事業展開ができる。	他ボランティアと意見交換することで、活動の参考にしたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業名称	図書館施設内の会場の提供	所管部署	課名 図書館
----	---	--------	--------------	------	-----------

施策番号	5-1	施策名	生涯学習の推進	展開方向番号	2	展開方向名	生涯学習関連施設の適正管理・有効活用の推進
------	-----	-----	---------	--------	---	-------	-----------------------

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	図書館事業を目的とする団体
--------	---------------

協働実施手法	2-5 施設・設備
--------	-----------

具体的な対象	情報収集することを目的とする団体	⑨対象者の母数	35,222人 (R5年3月末 広陵町人口)
--------	------------------	---------	------------------------------

目的・期待	町民の読書活動推進や情報収集する団体に、会場を提供することで、図書館利用が推進され、読書機会の増進、読書能力の向上が期待できる。
-------	--

事業内容	会場などの提供。図書館事業と目的を同じとする団体への会場の提供。展示ホールにおける作品展示や周知・啓発事業に供する。
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	
-------	----	-------------	--

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	24	B

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	上記の者や団体に会場を提供することにより、来館者の増加や図書館利用の推進に繋がった。	図書館施設での開催による相乗効果。来館者の多い図書館で開催することにより、周知効果があった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	提供できるスペースが限られており、賑わいを目的とした施設ではないため図書館の根幹業務の「静」の部分との共存が課題。	図書館という特性上、スペースや音の問題、開館時間など制限される部分があり、利用に不便を感じることもある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業 名称	図書館開館25周年記念事業(図書館マル シェ)	所管部 署	課名 図書館
----	---	------------	----------------------------	----------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	5-1	生涯学習の推進		2	生涯学習関連施設の適正管理・有効活用の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町内団体や企業
協働実施手法	2-1 後援・協賛

具 体 的 な 対 象	広陵町民、特に普段図書館を利用することのない人やコロナウイルスの影響で来館を控えていた人	⑨ 母 数	35,222人 (R5年3月末 広陵町人口)
----------------------------	--	-------------	------------------------------

目 的 ・ 期 待	イベント参加をきっかけに図書館利用を推進し、住民の生涯学習機会を増やすことが目的である。町内団体や事業者等に協力を得て開館25周年のイベントを開催した結果、来館者の増加や図書館の周知・成果ができたと考えられる。また、町内で活動する団体のPRIにも繋がった。
-----------------------	--

事 業 内 容	町内の団体や事業者などと協働して、年間を通じてマルシェやコンサート、体験型講座などさまざまなイベントを行った。NPO法人や事業者など各種団体が参加し、多くの方の協力を得た。
------------------	--

syuunenn

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		327		0	廃止

今後の方針	廃止	拡大・縮小・廃止の理由	記念イベントのため、今後は50周年イベントが予想される。
-------	----	-------------	------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5
		合 計					30	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	さまざまな団体や事業者に関わってもらうことで新しいアイデアや情報を知り得ることができた。	団体や事業者が図書館を通して繋がることできた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今まで知らなかった町内の協力者(団体・事業者)の存在に気づけた。今後の図書館の活動や催しに生かすことができればと考える。	今回は図書館イベントであったため、図書館が中核になっていたが、民間の団体だけで協働し事業を行うためには、どのようにすればよいのか中心となる必要がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	お楽しみ会	所管部署	課名 広陵東小学校附属幼稚園
----	---	--------	-------	------	-------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	施策番号	展開方向名
3-3	学校教育充実			

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	PTA役員
協働実施手法	2-2 共催

具体的な対象	東小学校附属幼稚園就園児	⑨対象者の母数	39名
--------	--------------	---------	-----

目的・期待
 コロナ禍で感染防止対策を行いながらも子ども達が異年齢グループにて時間設定をして、密をさけながらも楽しむことができた。異年齢児の交流に制限があった令和3年度はできなかったので実施することができ、異年齢児の関わりを持つことができた。また、令和5年度に向けてコロナ禍の制限緩和に伴い、計画して異年齢児の関わりを深めていきたい。

事業内容
 PTA役員が企画し、ゲームやお楽しみのコーナーを運営する。園児が夏のイベントを体験し、楽しむ。また行事を楽しむ中で、異年齢同士の関わりを深める。

えん

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円									(ブルダウン選択)

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4
		合 計					28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	PTA役員が子ども達のために工夫して企画してくれたことでコロナ禍での制限がありながらも思いも伝わり楽しむ事ができ、異年齢児交流ができた。	
協働することで感じた課題や今後の方向性	PTA 役員の状況を踏まえつつ、無理のない形で子ども達にとって楽しい経験ができるように職員と話し合い企画計画してしていく。	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	学校運営協議会	所管部 署	課名 真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園
----	---	------------	---------	----------	----------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	3-3	施策名	学校教育の充実	展開 方向	番号	展開方向名
----------	-----	-----	---------	----------	----	-------

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	学校運営委員
協働実施手法	2-3 実行委員会

具 体的 な 対 象	小学校校長、教頭、小学校教諭、PTA会長、幼稚園園長、学校コーディネーター、民生児童委員、まちづくり協議会会長、副会長、学校関係者評価委員、自治会役員	⑨ 対 象 者 の 母 数	10名
------------------------	---	---------------------------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	学校関係者、地域の方と意見交流をし、教育の向上をはかる。
--------------------------------------	------------------------------

事 業 内 容	・今の学校現状の共通理解。より良くなるための意見交流。・計画→実行→反省→見直し
------------------	--

事業費の方向性

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円									維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
合 計							28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	色々な人の色々な意見を聞くことで、子ども達にとってより良い教育を提供できると感じた。子ども達の事を第一に考え、小学校、幼稚園、地域が手を携えて、を良い方向に導いていると感じる事ができた。	小学校、幼稚園の現状、課題がよくわかった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	要望や課題、実態の情報共有をし、意見交流することで何をどうすればよいのかが見えてくる。それを実行していきたい。	小学校、幼稚園、地域としっかり連携をもって支援していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	おたのしみ会など	所管部署	課名 真美ヶ丘第二幼稚園
----	---	--------	----------	------	-----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
	保護者や地域との連携		本園の理解

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	保護者
協働実施手法	(ブルダウンを選択してください)

具体的な対象	参観やお楽しみ会・運動会などの行事を取り入れる。	⑨ 対象者の 母数
--------	--------------------------	-----------------

目的・期待	行事などに保護者や地域の方に参加していただくことにより園の様子を知っていただく。
-------	--

事業内容	
------	--

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円									(ブルダウン選択)

今後の方針	(選択)	拡大・縮小・廃止の理由
-------	------	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行事など園に来ていただくことで園の様子を知ってもらいきっかけになった。	園での子どもの様子を知ることができた。子どもと一緒に楽しめた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	園生活を知ってもらうことで、保護者も一緒になって課題など取り組むことができたのでこれからもいろいろな行事に参加していただきたい。	園生活を知ることによって安心して子どもを預けることもでき、園の行事の手伝いにも参加したい。